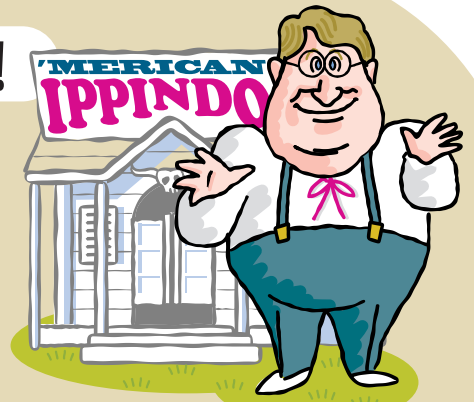


注目のアプライアンスが続々入荷!

アメリカン逸品堂



渡辺史敏

Photo: Kyoko Watanabe

アメリカでは、いまネットワークを活用したおもしろ製品がどんどん誕生している。

そのなかには感動的な驚きの名品もあれば、「なんだこりゃ?」な迷品もある。

ここアメリカン逸品堂では、毎月入荷する品々の中から店主厳選の逸品をご紹介します!

発売はされたモノの いまだウェブは使えず

IT不況が叫ばれ、パソコンが売れなくなったなか、唯一元気があると言われてきたのがPDA。PalmやPocket PCのような定番モノだけでなく、先月紹介したeBookmanのようなちょっとユニークな製品も多数登場している。

今回紹介するVR3もそんなちょっとカワリダネに分類されるもの。その最大の特徴はLinuxをOSにした初のPDAだということ。オープンソースで大人気のLinuxをPDAにという動きはけっこうあったが、製品化はこのVR3が初めて。TCP/IPとの親和性の高さなどが

アピールされているほか、Linuxコミュニティによる多数のソフト開発も期待される。

ということで使い勝手だが、普通に使うぶんには他のPDAと目立った機能の違いはない。アドレスブックやスケジューラーなどの一般的なPIM機能はあらかじめインストールされているし、手書き入力機能がソフト的に起動するようになっていたりところやメニューがポップアップするところなどはPalmよりもPocket PCに近い印象だ。

CPUは66MHzの32ビットNEC VR4181。メモリーは8MB RAMとフラッシュメモリーが16MBという構成だ。液晶は16階調で160×240のモノクロ。アプリケーションの切り替え

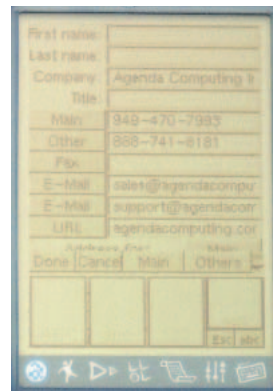
でちょっともたつく感じはあるものの、けっこうキビキビ動いてくれる。ちょっと驚かされたのがパソコンとのシンクロソフト。なんと基本で用意されているのはLinux用のみなのだ。さすがLinuxマシンといったところだろう。

さて、インターネット対応の容易さをうたうくらいだから、インターネット利用もすいすい...と言いたいところなのだが、残念ながら専用モデムを入手できなかった。同社の通販部へオーダーしてから1か月以上待ったのだが、在庫切れが続いている。サポートに電話すると毎回「あと2週間ぐらい」と言われてしまう。また、4月に公開されたはずのブラウザもいまだにウェブにアップロードされず、シンクロソフトもウィンドウズ用が6月に版、7月に製品版が公開予定のハズが8月になっても版すら出ていない。

どうも他に先駆けて発売したものの、先細りに陥ってしまったようだ。不況の波はここまできたのか、そんなことを思ってしまった最終回の逸品堂であった。

Linuxを搭載した初のPDAが登場!

VR3



手書き入力はソフトキーボードの一部として機能するようになっている。起動するまでが少し面倒。



リセットするとLinuxがOSであることがわかる起動画面が表示される。

DATA

メーカー: Agenda Computing

価格: 249ドル(専用モデム: 99ドル95セント)

www.agendacomputing.com

元祖アプライアンス、ネットワークコンピュータは**いまだ健在**

NIC

OSがバージョンアップ
価格はなんと200ドル

これまで多くの最新ネットアプライアンスを紹介してきた当逸品堂だが、最終回となる今回はあえて老舗ともいべきNew Internet Computer (NIC)を紹介しよう。

NICの開発はもう6年近く前、オラクルのCEOラリー・エリソンが提唱した簡単で便利なネットワークデバイスという発想から始まった。その後紆余曲折があったものの昨年1月にエリソンが会長になって会社を設立して発売に至ったのである。まさにネットアプライアンスの先駆者的存在なのだ。

まずハード的な面から見てみると、CPUにはCyrix MII PR266を搭載し、メモリーは64MBという構成になっている。モデムはもちろん、10/100 Base-TのイーサネットポートとUSBにも対応している本格派だ。

特徴的なのはキーボード、マウス、スピーカ



これが2.0版の基本画面。ネットスケープ4.76がいっぱいに表示される。



動きはぎこちないが複数のウィンドウを開ける。ゲームもいくつか用意される。

DATA

メーカー：New Internet Computer Company

価格：199ドル99セント

www.thinknic.com/about/

一付きて約200ドルという低価格にもかかわらずCD-ROMドライブを搭載していること。というのも、このNICは毎回CD-ROMからOSを起動する仕様だからだ。このOSは、Linuxをモディファイしたもの。今回、古典とも言えるNICをあえて紹介することにした1つの理由は、この“NIC”OSが今年になって2.0

にアップグレードしたことにある。“アップグレード可能”をうたっているにもかかわらずアップグレード前に消えていく競合製品が多いなか、しっかりアップグレードしたのは立派だ。

ちなみにアップグレードの内容はツールタイプフロントやリアルプレイヤー8.0、マクロメディアフラッシュ5などへの対応がメインだ。

さて、実際のネット利用だが、ネットスケープがすべての基本となる。NIC 2.0ではネットスケープ4.76が採用されており、メールもヤフーメールのような



ウェブメールを使うようになっている。前述したようにリアルビデオを見られるのだが、メモリーが足りないのか、少し負荷がかかると止まってしまうこともあった。

起動すると画面いっぱいネットスケープが表示されるが、実際にはちゃんとデスクトップ上にウィンドウとして開いており、閉じることも可能だ。これはリモートサーバーを使えば、ワープロなどのアプリケーションを使うこともできるというNIC本来の狙いが見えるところでもある。一時はPCに取って換わるとも言われたNIC。今後も世間の荒波を乗り越えていってほしいものである。



ひと足早くハヤリモノをcheck!

今月の早目・早耳

Napsterのおかげか、インターネットから音楽をダウンロードして楽しむのはすっかり定着し、MP3携帯プレイヤーもバカ売れだ。にもかかわらず家庭内の高音質なAVシステム経由でインターネットミュージックを楽しむための機器は依然いまひとつ伸び悩んでいる。このコーナーでもこの分野のアプライアンスはいくつか紹介したが、いずれも大ヒットはせず、すでにアメリカ市場から姿を消してしまった製品すらある。ネットオーディオと既存のAVファンの間には見えない壁があるのかもしれない。

そんな障壁をあえて挑もうというメーカーが現れた。家電大手のフィリップスはインター

ネットオーディオシステム内蔵のCDミニコンポ、FW-i1000を秋にアメリカで発売すると発表したのだ。FW-i1000には以前紹介したIMレーザーのストリーミングオーディオ再生モジュールが内蔵されており、ユーザーはラジオ感覚でインターネットラジオを高音質で楽しめる。さらにホームネットワークにも対応し、PCに保存したMP3の再生も可能。もちろんCDミニコンポとしての実力も高い。この真打ちの登場で、壁

インターネットラジオ機能が付いたCDコンポ

FW-i1000

www.cft.philips.com/aboutus/internet_radio.htm

が打ち破られることを期待したい。



北米では今秋に発売される予定とのことだが、価格はまだ未定。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp